

防衛、名目、下二南部佛印
 軍事成地ヲ獲得シ、皇軍ヲ進
 駐セシムルコトニ、議決
 去ル十日以來、
 佛子政府ト交渉ニ来リタル
 處、其日蘭南字續ニ對シ、更
 ニ細目約定ニ佛印河内ニ於

大臣 官 次

東亞局長

電話第 27913 27914 主管

昭和 16 年 7 月 24 日 午後 8 時 10 分 發

南洋局長 主任 第三課長

發電係

昭和 16 年 7 月 24 日 起草

24 82

件名	宛	發
南洋佛印進駐ノ事	在東京 在東京 在東京 梅津大佐	兵田大佐
件名	記録件名	
右第一五九三號秘 第五政府ニ對シ、最近ノ緊迫ヤ、 佛印ニ對シ、東亞共榮圈權立 ニ邁進スルコトヲ為佛印ニ共同	復長子子級	

電 信 案

外 務 省

日本標準規格B6) S 1.7.0.0-14 539

電信案

的並軍事的地位如步ヲ^{佛印}抑護スル
 防衛シテ以テ希玉、改後の決指
 レル^{結果}、佛印ヲ右脅威^ヲ
 ントスル、決向^ヲ取者トナリ来
 ハ佛印ヲ佛本^ヲ至リ離脱シメ
 並ニ^ヲト^コ^ノ^一派ト^シ揚策^ニ遂ニ
 於テ希玉ト、揚揚^ヲ希^ハ甘^ハ一派
 並ニ^ヲト^コ^ノ^一派ト^シ揚策^ニ遂ニ

日本標準規格B5 S 1,7,0,0-14 543

外務省

電信案

的^對經濟的及軍事的包圍^ヲ絶^シ勢^ヲ強
 化ニ^シ起^ル國スル^ニ事^ヲ終^ス、切迫^ハ希玉
 ヲ^シテ^ハ片^ノ自^ラ存^ス自^ラ衛^ス及^シ在^リ重^ニ於
 ケル^ニ地^位抑^制、為^シ得^ル有^シ效^ナク
 ル^ニ防^守手^段ヲ^執ラ^ルカ^ンヲ^得ヤ
 ラ^レム^ルニ^シテ^ハナ^リシ^ト處^ニ是^レ迄ニ
 至^リテ^ハ三^ノ希^玉ヲ^シ佛^印内^ニ

日本標準規格B5 S 1,7,0,0-14 542-1

外務省

REEL No. A-1077

電信案

外務省

、指星ヲ執之キ旨請フ申入レ
夕ハ結果、廿一日迄年佛出、今迄
的、是熱熱、

日本標準規格B5)

S 1,7,0,0-14

547

電信案

外務省

指標シ、
受テ了ルコトヲ、
ハ、
兼、
廿一日迄、
ヲ得タリ、
不申定の回答、
熱、回答ナキ、

日本標準規格B5)

S 1,7,0,0-14

546

REEL No. A-1077

0303

アジア歴史資料センター



帝國政府聲明

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ始メ累次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル感今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニヨリ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極就中佛領印度支那ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ニ依リ生ズル帝國ノ實務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ今後益々日佛友好關係ノ増進ニ努メ以テ兩國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス

外務省

日本標準規格 B5

1,7.0.0-14

549

次官
第一課長
電送第 27915 27916 號

(分類)

電信案

外務省

日本標準規格 B5

1,7.0.0-14

548

主管 附洋局長 主任 第二課長	電送第 27915 27916 號	昭和 16 年 7 月 24 日 午後 10 時 10 分 發
宛 東京 直轄 梅田大佐	件名 南支那佛領印度支那 ニ付	發 五ノ目大佐
右第 五九四 號 梅田	記録件名	

電信課長

發電係

昭和 16 年 7 月 24 日 起草

記録係

83

電 信 案

外 務 省

就テハ右声明發表前ニ「夕」政府ニ之ヲ由報レ置ク
 フト今後ノ施策上有致ナリト認メラルニ付テハ「夕」
 見タルヲ以テ二十六日正午佛印ノ共同防衛成立ニ
 聞スル電報第四二八号帝國政府声明ヲ發表
 スルコトトセリ

交渉ヲ了レタルヲ以テ直チニ河内ニ於ケル現地交渉
 ニ入り二十三日細目協定成立セリ茲ニ本件妥結ヲ
 見タルヲ以テ二十六日正午佛印ノ共同防衛成立ニ
 聞スル電報第四二八号帝國政府声明ヲ發表
 スルコトトセリ

日本標準規格B5

S 1.7.0.0-14

551

大臣
 次官

電 信 案

外 務 省

電送 796 号
 昭和十六年七月二十四日午後九時十分發

主管 南洋局長 齋藤
 主任 第二課長
 昭和十六年七月二十四日起草

電信課長
 發電係

24 108

件名 宛
 在タイ
 二見公使
 伊印共同防衛ニ関スル
 泰中政府声明發表ニ関スル件

記録件名 發
 豊田大臣

第 四 二 七 號
 (艦 長 官 署 出)

往電才四〇三号ニ関シ
 夕「夕」シールトノ交渉ハ十四日開始セラレ三十
 一日意見ノ一致ヲ見ニ十二日文書ノ

日本標準規格B5
 S 1.7.0.0-14
 550

電信案

タイ向傳統的友好關係ハ之ヨリ毫モ影響ヲ受ラサル
コト

ニ日中トシテハ今後トモ「タイ」ノ興隆發展ノ為援助
スヘキ(對)執一意ニ變化ナキコト

三、日ヲタイ緊密關係ニ鑑ミ特ニ本件ヲ内報ニ送答
ナルヲト

新電

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0-14

553

電信案

打テ置カレ度ニシ

一、本邦共同防衛カ「タイ」ヲ目標トセサルハ勿論ニシテ日
共ニ此ニモ輿論カ及日乃至恐目的トナラサル様釘ヲ
影響ニ鑑ミ輿論指導上充分留意相成度ト
回電アリ度為本件發表カ「タイ」輿論ニ及ボスヘキ
二十五日午後六時頃(「タイ」時間)前記声明報セラシ結果
限リノ旨ニトシテ冒頭往電即旨ニ上左記趣旨ニテ

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0-14

552

極秘

帝國政府專電

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ始メ果大ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニヨリ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極、就中佛領印度支那ノ領土保全故ニ主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ他ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ今後益々日佛友好關係ノ増進ニ努メ以テ兩國共榮ノ實ヲ舉ゲンコトヲ期ス

外務省

日本標準規格 B5

S 1,7,0,0-14

555

(分類)

電信案

外務省

日本標準規格 B5

S 1,7,0,0-14

554

電送第 279689 號		主任 斎藤三郎	
昭和 16 年 7 月 24 日 午後 9 時 40 分發		昭和 16 年 7 月 24 日 起草	
件名	宛	記録件名	發
別紙 四三八 號 札本 (總務省)	在野ニ見合		由白公任
日佛友好關係			

電信課長

發電係

109

記帳係

大臣
陸軍大臣
陸軍省

27939

電送第 27939 號

昭和十六年七月二十四日午後八時十分發

南洋局長

主任

發電係

昭和十六年七月二十三日起草

24 106

557

S 1.7.0.0-14

電信課長

主任

發電係

南洋局長

在 獨 大 島 大 使

發 豐 田 大 臣

記 錄 件 名

皇 軍 / 佛 印 南 部 進 駐 交 渉

佛 印 二 國 之 交 渉 / 佛 政 府 / 至 日 回 答 / 以 上 全 面 的

受 諾 / 認 現 地 細 目 協 定 / 話 合 / 二 入 / 二 十 三 日

現 地 協 定 成 立 / 在 佛 印 / 共 同 防 衛 / 二 國 / ス ル 事

電 信 案

外 務 省

大臣

27974

電送第 27974 號

昭和十六年七月二十四日午後八時十分發

南洋局長

主任

發電係

昭和十六年七月二十四日起草

24 99

556

S 1.7.0.0-14

電信課長

主任

發電係

南洋局長

在 河 内 林 總 領 事

發 豐 田 大 臣

記 錄 件 名

皇 軍 / 佛 印 南 部 進 駐

佛 加 藤 大 使 發 本 大 臣 宛 電 報 第 四 九 号 轉 電

至 急 第 一 〇 一 號

館 長 符 号 報

電 信 案

外 務 省

REEL No. A-1077

0308

アジア歴史資料センター

電
信
案

外
務
省

件ニ轉電アリタル

日本標準規格B5

S 1.7.0.0-14

559

電
信
案

外
務
省

本大臣ノ訓令トシテ
付ニ轉電アリタル

就テハ責任國政府ニ對シ至急ニ今次交渉ノ妥結ヲ
通報シ本件成立ニ付テハ協力ニ對シ謝意ヲ申入レラル
ルト共ニ帝國政府聲明ノ内容電合第〇
アリ度ニ

ノコトトセリ

日本標準規格B5

S 1.7.0.0-14

558

REEL No. A-1077

0309

アジア歴史資料センター

極秘

(案)

最近米國新聞ガ米國官邊ヲ意同トシテ傳フル所ニ依レバ米國ハ帝國ノ南
 進ヲ阻止スル爲對日經濟壓迫ヲ強化シ資金凍結油類輸出禁止、邦船抑留
 等ノ措置ニ出ツベキ旨仄カシアル趣ナルガ帝國ノ現ニ執リツツアル施策
 ハ自衛上ノ必要ニ出ヅル公正ナル方策タルノミナラズ帝國トシテハ實ニ
 死活ノ問題ナルヲ以テ我方トシテハ第三國ノ容喙乃至威壓ニ依リ變改シ
 得ルガ如キモノニアラザルコト固ヨリ當然ナリ
 而シテ米國政府ニ於テ萬一我方ニ對シ前記ノ如キ措置ヲ執ルコトヲ考究
 中ナリトセバ日米間ノ通商ニ重大ナル影響ヲ及サントスルモノナルヲ以
 テ我方トシテモ機宜對策ヲ講ズルノ要アル處米國政府トシテ果シテ右ノ

二月甲午年三月
 此中ハ比シテ接初ニ
 内

海軍

S 1,7.0.0-14

560

如キ措置ヲ執ラントスル意圖ヲ有スルヤ否ヤ至急承知致度

海軍

S 1,7.0.0-14

561



大正十六年七月二十四日午後四時大臣「オット」大使
ヲ招致會談セラレタルガ先ツ大臣ヨリ左ノ趣旨ニテ御
話シアリタリ

昭和十六年七月二十四日午後四時大臣「オット」大使
ヲ招致會談セラレタルガ先ツ大臣ヨリ左ノ趣旨ニテ御
話シアリタリ

第二部長 七

一六七二四

先日来御承知ノ佛印共同防衛ニ關スル話カ風潮ニ進ミ去ル二十日
加藤大使ト「ヴィンシー」政府間ニ話ガ繼リマシタ目下議定書交換
ノ準備中デアリマスガ此ノ機會ニ此ノ話進行中獨逸側カラ爲サレ
タ支援ニ對シテ感謝ノ意ヲ表シマス
此ノ件ハ二十六日發表スル慣リテスカソレ迄ハ貴大使及ヒ貴國政
府丈ニ留メテ置イテ眞キ度シ發表ノ時期ハ日本時間二十六日正午
ト大體定メテオリマスガ尙詳細ハ相談中デス
「オット」大使ヨリ御説明ノ發表トハ新聞へノ發表カ關係國政
府へノ通告カ何レニ諒解スベキヤト質問アリ大臣ヨリ右ハ新聞ニ
對スル帝國政府ノ發表ナリト答ヘラレタリ
政府聲明中ニハ佛領印度支那ノ領土保全故ニ主權ノ尊重ニ關スル

外務省

S 1.7.0.0-14

562

嚴肅ナル約束ニ依リ生スル帝國ノ責務ハ之ヲ嚴守スル旨ヲ明白ニ
示ス積リテアリマス
「オ」大使ヨリ「右約束トハ一九四〇年八月ノ協定及ヒ最近成
立ノ協定ヲ意味スルモノナリヤ」トノ質問アリ大臣ヨリ「然リ松
岡「アンリー」協定等ヲ意味ス」ト答ヘラレタリ
右ニ對シ「オット」大使ヨリ左ノ通り發言アリタリ
「本國政府カラノ通報ニ依レバ「ダルラン」ハ日本政府ニ對シ「ノ
ト」ヲ以テ日本軍ノ進駐ハ共同防衛ノ必要存スル限りノ暫定的
ナルモノタルベシトノ希望開示アリタル趣ナルカ先ニ話サレタル
日佛間合意ニハ右問題モ含ムモノナリヤ
之ニ對シ大臣ヨリ「佛側ノ希望スル處ハ然リ但シ之ニ對シ日本政
府ヨリハ返事シ居ラス」ト答ヘラレタリ
然ラハ日佛間合意トハ原則的問題ニ關スルモノニシテ結局日本軍
カ佛印軍ト衝突ナク風潮ニ進駐スルニ充分ナル合意成立セルモノ

外務省

S 1.7.0.0-14

562-1

REEL No. A-1077



大正...
...

ト解シテ可ナリヤ（之ニ對シ大臣ヨリ「然リ而シテ細目ニ就テハ
我方現地代表ト佛印官憲代表トノ間ニ協定成立セルモ余ハ未タ其
ノ詳細ヲ承知シ居ラス」ト答ヘラレタリ）
佛印ニ在ル資源ニハ獨逸ノ戰爭遂行ニモ必要ナル物モアリ其ノ點
好意的ニ御考慮アリタシ之ニ對シ大臣ハ「出來得ル限りノコトヲ
致スベシ唯、今ノ處テハ米ノ獲得位カ可能ナリ」ト答ヘラレ之ニ
對シ「オ」大使ハ更ニ獨カ「ヴィンシー」ト話合ニ於テ關心ヲ有シ
居ルハ「ゴム」ナリト附言セリ）

外務省

S 1.7.0.0-14

563

豐田大臣伊大使トノ會談要旨（午后五時五分ヨリ
約十五分位）

一六七二

大臣ヨリ
貴大使ノ來訪ヲ求メタルハ佛印ノ共同防衛ニ關スルオ話ヲスル爲テ
アリマス佛印ニ對スル我方ノ關心ハ貴使モ御承知ノ通りナル處最近
英米カ包圍ノ態勢ヲ取りタルニ鑑ミ之ニ備フル爲ニ二十日「ヴィン
シー」政府トノ間ニ意見ノ一致ヲ見マシタ右ノ中ニハ佛印ノ領土保全
及ヒ主權尊重ニ關スル條項カアリマス
之ニ對シ伊大使ヨリ
協定カ共同防衛ノ目的ト東亞共榮圈ノ實現ニ資スルコトヲ希望スル
旨尙ニ樞軸國伊太利トシマシテハ他國以上ニ之ノ成立ヲ喜フモノテ
アリマスト述ヘラレタリ
大臣ハ更ニ二十六日發表ノ豫定テアリマスルカ事前ニオ話シスル次

S 1.7.0.0-14

564

電信寫

外機密

昭和18 二一八一五 (暗)
 本 省 七月二十五日發
 加藤大使

豐田外務大臣
 第四二八號 大急電 船長付加被
 貴電第三一四號未読ニ候シ
 Te setais 云々ハ除録セラレス

S 1.7.0.0-14 566

第ナアリマスソレ迄ハ貴大使ト貴國政府限リノ御含メトセラレ度シ
 ト述ヘラレタルニ對シ
 伊大使ハ「良ク諒解シマシタ要領ハ本國政府ニ傳達シマス」

外務省

S 1.7.0.0-14 565

外機密

ワシントン 七月二十五日午後
二時六分

夏田外務大臣

信田二九號(別表) 駐米新使

信田二九號(別表) 駐米新使

reconnaitront qu'en conséquence, sans ... 訂正アリタシ(了)

電信寫

外機密

信田二九號(別表) 駐米新使

夏田外務大臣

第二六九號

軍進駐ニ伴ヒ信田外務大臣ノ指示アリ...

積込ニ能率ニ相宜ノ設備アルヘント...

ル爲軍方及民間船ト運送線ノ上至急...

リタ...

電信寫

S 1.7.0.0-14 568

567

外機密

電信寫

昭和16年2月19日 (暗)
本省外省
七月二十五日午後
二十六日夜着

豊田外務大臣

加藤大使

第四三三號 (大至急)

貴電第三一七號ニ關シ

佛側ハ撤兵問題ヲ固執セルニ付當該部分ヲ冒瀆貴電末段ノ通り作
成シ佛側係官ノ同意ヲ取付ケタリ佛側確答ハ明朝申越ノ豫定ナリ

(了)

S 1,7,0,0-14 569

REEL No. A-1077

0315

アジア歴史資料センター

No: 415

東
光
文

SHORT WAVE NEWS

25th July, 1941 - Friday Afternoon

SHANGHAI XHHA (AMERICAN STATION) - 1:00 p.m.

Note - THE RECEPTION THIS AFTERNOON WAS EXCEEDINGLY POOR DUE TO INTERFERENCE AND AS A RESULT MR. SUMNER WELLES'S LENGTHY STATEMENT COULD NOT BE FULLY COVERED.

Washington: The United States State Department through Mr. Sumner Welles, Under-Secretary of State, voiced its attitude on Japan's behaviour in Indo-China in a lengthy statement. Mr. Sumner Welles said "In the year 1940 it will be recalled that the Japanese government gave expression of its desire not to see any disturbance initiated that would spread throughout the whole Pacific area including The Netherlands East Indies and Indo-China." On September 25th 1940, continued Mr. Welles, referring to events fast moving in the Indo China situation, The Secretary of State declared that the existing situation in the Far East was undergoing a rapid change particularly with the developments that were being made in Indo-China and that further changes were being made under duress by the French Government in Vichy and the French Government in Indo China. It is only clear that the Japanese Government is exercising her influence upon the French Government and that the Japanese Government is giving clear indication of her intentions. The French Government in order to prevent Indo China from being another battleground has been carrying on talks with regard to the occupation of Indo China by the Japanese and it is reported that they were establishing bases in that region due to what is called a measure of self-defence.

The Government of the United States and Great Britain

S 1.7.0.0-14

571

取
扱
注
意
外
務
省
調
査

have no territorial ambitions in Indo-China and, thus, it can only be concluded that the Japanese actions in demanding of France bases in that country in the introduction for her conquest in the southern regions. The actions being taken by Japan constitute a danger to peaceful nations and the peaceful situation in the Pacific. It will jeopardise the exports to the United States of tin, rubber and other necessary materials which are vitally essential for our industries and for the fulfilment of our defence programme."

Washington: President Roosevelt told reporters that the U.S. did not ban the sale of oil to Japan due to his policy of trying hard not to cause the breaking out of war in the Pacific. The Chief Executive did not indicate to what U.S. foreign policy would be. He said that he could effect a ban of oil but to fulfil his appeasement policy he did not do so and thus prevented the outbreak of war for two years now.

London: According to United Press reports the British attitude towards the Indo China affair seems to be very conflicting, and which the correspondent said is bewildering the U.S. One commentator said that Japan's action did not consist of any threat to Singapore. An authoritative political commentator said that Great Britain was eagerly concerned with the situation and that Japanese actions cannot be considered a move of self-defence. Another British commentator said that Vichy has to be blamed and attacked the French government because of its collaboration with Germany. It was also reported that Great Britain with the Dominions were closely watching the situation and was holding conversations and exchanging information with The U.S. regarding any further pressure Japan might exert over the French and her future moves.

2-2-2-2

2-2-2-2

S 1.7.0.0-14

570

寫

極

勅電報

昭和一六七二五

番田梅園

陸軍

佛印當局ノ受諾セル「日佛細目協定」ハ二十四日午後日笠中佐ヲ三
班ニ派遣シ佛印軍及第二遣支隊ニ通報セシノ完全ナル了解ニ達シ
アリ

(終)

S 17.0.0-14

572

極

寫

勅電報

昭和一六七二五

河内番田梅園

陸軍

二十三日二十二時(日本時間)河内ニ於テ日本、佛印間ノ細部協
定ヲ終了セシカ佛印當局ハ我カ方ノ要求ヲ受諾セリ
ニ中華航空ノ佛印内定期航空ノ件(軍用定期)ハ直チニ之ヲ開始シ
得ルコトナレリ

法務省
河内
番田
梅園
陸軍

S 17.0.0-14

573

外務省

電報
次長宛

七二四一三〇〇發
河内澄田機關

昭和一六七二五

河内電第六二一號

昨二十三日二十二時（日本時間）河内ニ於テ日本、佛印間ノ細部協
定ヲ終了セシガ佛印當局ハ我方ノ要求ヲ受諾セリ依ツテ參電第八
三一號ノ如ク中華航空ノ佛印内定期航空ノ件ハ直チニ之ヲ開始シ得
ルコトナレリ

通電先 次長、波、富集團（東京參考迄）

（終）

S 17.0.0-14 574

外務省

電報
次長宛

七二四二三〇〇發
河内澄田機關

昭和一六七二五

河内電第六二二號

佛印當局ノ受諾セル「日佛細目協定」ハ二十四日午後日笠中佐ヲ三
亞ニ派遣シ富集團及第二遣支艦隊ニ通報セシメ完全ナル了解ニ達シ
アリ

通電先 兩次長、次官

（終）

S 17.0.0-14 575

電 信 案

外 務 省

サレリ且左ノ再確認ニスル電第ニ五九七号ノ帝
 国政府聲明及議定書ハ何レモ公表セラルベキモ
 ノニ件右ニテ充分ナリト思考ノニ是リ貴見ノ次ハ
 ハアルモ今固ハ之ヲ見会ヌコト、致シ度

(日本標準規格B5) S 1.7.0.0-14 577

大正

(分類)

電 信 案

外 務 省

主管 電信課長 (印)

主任 第二課長 (印)

昭和十七年七月二十五日起草

25 1

記帳簿 (印)

電送 27984 號

昭和十七年七月二十日 時分發

宛 加藤 大臣

名 近衛首相ヨリノ口書ニ宛
 件 付マセシテニ由ル件

第三一五 號

後段

電 第 三 一 五 號

記 録 件 名

發 豊田 大臣

豊田 大臣 第四〇八号ノニ由ルニ
 佛印ノ領土保全及佛國ノ主權尊重ニ由ルニテハ既
 ニ電第ニ八〇号近衛首相ノ付マセシニモ

(日本標準規格B5) S 1.7.0.0-14 576

電信業務
 des forces japonaises
 dans les zones de libération
 cesus... les agents
 外務省
 日本標準規格 JIS
 5 1,7,0,0-14 579

電信業務
 外務省
 昭和一八年七月二十三日
 電信課長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

電信業務
 外務省
 昭和一八年七月二十三日
 電信課長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

條約局長
 第一課長
 事務主任
 電信課長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

昭和一八年七月二十三日
 電送第 28041 號
 時分發 6 時 1 分
 年 7 月 23 日
 件名 宛
 加藤大使
 在巴黎
 南法局長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

電信業務
 外務省
 昭和一八年七月二十三日
 電信課長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

電信業務
 外務省
 昭和一八年七月二十三日
 電信課長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

電信業務
 外務省
 昭和一八年七月二十三日
 電信課長
 主任 第三課長
 發電係
 記帳簿 25
 34

REEL No. A-1077

0320

陸軍 海軍 陸軍 海軍
 二〇一四〇

次官

調査部
 第一五九八

電 信 案	外 務 省	電送第 28104 號	主管 南 洋 局 長 齋 藤
		昭和 16 年 7 月 25 日 午後 8 時 28 分	主任 第二課長
電 信 案	外 務 省	件名 佛領印度支那ノ共同防衛ニ 關スル日佛間取極成立ノ件	宛 至急情報通り
		記録件名	發 豊田大臣
最近ニ於ケル國際情勢ノ急變竝ニ大東亞共榮圈 一部タル南洋方面ニ於ケル第三國側ノ策動ニ起因 ズル事態ノ緊迫ニ備フル為帝國政府ハ急速 に対応スルニ急務ニ (在在) 極力 自衛		台 第一五九八 號 昭和十二年七月二十四日起 25	

(日本標準規格 B5) S 1,7.0.0-14 533

電 信 案	外 務 省	表トス 一、採、取、サ、レ、後、尚、本、件、文、書、ハ、不、公 十、字、句、ハ、危、對、ト、シ、 十、字、句、ハ、危、對、ト、シ、 十、字、句、ハ、危、對、ト、シ、 十、字、句、ハ、危、對、ト、シ、
-------------	-------------	--

(日本標準規格 B5) S 1,7.0.0-14 530

自衛^上必要ナル有効手段ヲ講ズルノ已ム無キニ至
 シリ 敘上ノ事態ニ対シ佛領印度支那ノ安全ヲ
 確保セシカ為日佛兩國共同ニテ佛領印度支那防
 衛ニ当ルコトヲ緊要ト認メ右共同防衛ニ同意
 佛國側ノ同意取付方在佛大使ヲシテ佛國政府ニ
 申入レシメオケリ

然ルニ佛國側ニ於テモ本件ノ重大性ニ鑑ミ

電信案 外務省

日本標準規格 B5 S 1.7.0.0-14

534

慎重ナル考慮ヲ加ヘタル後帝國ト同調シテ大東
 亞ニ於ケル平和及安寧ヲ維持セントスル大局的見
 地ヨリ我方ノ提案ヲ全面的ニ受諾スルコトニ決
 シ今般兩國政府間ニ佛領印度支那ノ共同防衛
 ニ同意ル取極成ニ至リ近ク署名ノ運ニ至ル筈ナリ
 尚本件ニ同意シ帝國政府ハ廿六日正午右約束成
 立ノ事實及帝國政府ノ佛領印度支那領土保全

電信案 外務省

日本標準規格 B5 S 1.7.0.0-14

535

REEL No. A-1077

アジア歴史資料センター

外機

南洋課長

七月二十五日午後二時二十五分—四十分豊田外務大臣
 「アンリー」佛國大使會談要旨（於外務大臣官邸）

豊田大臣—今般前任者松岡氏ノ在任中ヨリ行ハレ居リシ日、佛兩國
 間交渉ガ圓滿妥結ニ到達ナルハ洵ニ御同慶ノ至リナリ而シテ本大
 臣ハ今次協定及ビ既存文書ノ諸約束ヲ嚴守シ以テ最善ヲ盡シテ日
 佛親善ノ増進ニ努力ヤントノ所存ナル旨此ノ際特ニ附言致度シ
 「アンリー」大使—唯今閣下ノ言ハレシコトハ之ヲ本國政府ニ傳達
 スベキモ本使自身今次妥結ヲ喜ビ居ルモノニシテ佛國政府トシテ
 ハ貴國政府再三ノ言明ニ對シテ其ノ誠意ト前幾トヲ信賴シ之ヲ記
 録スルノ外ナカリシ次第ナリ

豊田大臣—本大臣ハ帝國政府言明ノ誠實ハ之ヲ信賴セラレテ然ル可
 キナル旨斷言スルモノナリ尙交渉妥結ニ關スル「コムミニケ」ハ
 明二十六日正午之ヲ發表スル豫定ナルニ付御内報申上グル次第ナ
 ルモ右發表迄ハ貴使限リノ御含ミト御承知アリ度シ

外務省

日本標準規格B5) S 1,7.0.0-14

537

電信案

外務省

意ヲ表明シ置ケリ尚猶大使ハ印中其ノ戰爭家
 行必要ナルモノアルニ付我オノ好意以テ考慮ヲ希望スルニ付
 日本大臣ヨリ出ルル文書カスヘキモ現下ニ此等ノ獲得位カ可能ナリト
 為ヘタレハ同大使ハ猶カ固心ヲ有ルルハ「コム」ナリトホゞ居タリ

佛 仙、存、持、承、了、り、度

日本標準規格B5) S 1,7.0.0-14

532



七月廿五日午後四時豊田外務大臣・「インデルリ」
 伊國大使會談要領（於外務大臣官邸）

「インデルリ」大使―最近米商が日本ニ對シ強硬措置ヲ取ラントシ
 居レル旨ノ情報ガ類々傳ヘラレ居ルモ貴方ニ於テハ右ニ關シ何
 等正式報進ニ接シ居ララルヤ

豊田大臣―正式報告ニハ接シ居ラザルモ自分一側ノ所見ヲ申上グレ
 バ斯ノ如キ事ハ畢竟今次日條交渉ノ内容ガ知ラレ居ラザル爲メ
 本ハ壓力ヲ以テ條約政府ニ對シ日本側要求受諾方ヲ強要セルナ
 ラントノ想像ニ基クモノト思考セラルルニ付明廿六日ノ「コム
 ミニユケ」等ニ依リ真相ガ判明スレバ自然解消スベシ

「インデルリ」大使―御同意ナルモ私見ヲ申上グレバ米當局ハ日本
 ハ米カ威嚇スレバ折レルベシトノ鑑定ノ下ニ對日強硬態度ヲ持
 續シ居ルモノノ如ク而シテ斯ル見解ハ多分ニ在東京米國大使館

「アンリ―」大使―本使ハ右發表ニ關シテハ何等承知シ居ラザリシ
 モ右ハ「ヴィンシー」政府ノ諒解ノ下ニ爲サルモノナリヤ

豊田大臣―詳シキコトハ知ラザルモ「ヴィンシー」ニ於テモ明日同時
 刻ニ同様ノ發表アルモノノ如シ

自分ハ「ベタン」元帥ノ人物ニ對シ豫々尊敬シ居リシテナル處客
 年危殆ニ瀕ナル本國ヲ救ハンガ爲決然立タレ爾來粉骨碎身甚大ナ
 ル努力ヲ續ケ居ラレル元帥ニ對シ益々ソノ念ヲ深メ居レル次第ナ
 リ又「ダラン」副總理ハ倫敦軍縮會議ノ場同副總理ハ佛蘭西門
 委員トシテ自分ハ日本關專門委員トシテ出席シ居リシ關係上ヨリ
 存ジ上ケ居ル次第ニシテ御序ノ折宜敷ク御傳ヘアリ度シ

外務省

リノ報告ニ基クモノナルヤニ思フセラルル節アリ仍而米當局ニ
シテ日本ニ對シテハ感懐ハ何等效果ナキコトヲ知ルニ於テハ其
ノ對日態度モ必然變更スルニ至ルベシ
豊田大臣一全ク御同感ナリ

S 17.0.0-14 590

佛印本和通融ニ關シ在京米國大使ニ對スル申入案

去ル七月二十一日帝國政府ト「ヴィンシー」政府トノ間ニ友好裡ニ佛
印ノ共同防衛ニ關シ意見ノ一致ヲ見近ク之ニ關スル聲明ヲ發表スル
運ヒトナレリ

此ノ機會ニ本大臣ハ日本政府ヲ代表シ貴大使ニ對シ本件措置ニ對シ
事前ノ通報ヲ爲スト共ニ海外情報等ニ於テ帝國政府カ「ヴィンシー」
政府ニ對シ最後通牒ヲ突付ケタリ等無根ノ事實カ報道セラレ居ルニ
鑑ミ真相ヲ訊カニシ本問題ニ依リ不必要ノ誤解ナカラシムムカ爲茲
ニ御來訪ヲ願ヒタル次第ナリ

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月ノ松岡「アンリー」協
定ヲ初メ屢次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般

S 17.0.0-14 591

外務省

更ニ現下ノ複雑多岐ナル國際情勢下ニ於ケル佛印ノ安全ヲ保障シ同
 地方ニ於ケル平和攪亂ヲ防止スルコトカ日佛ノ共通ノ利害ナルニ
 今同前述ノ通り日佛兩國政府間ニ佛印ニ關スル共同防衛ノ諒解成
 立セル次第ナリ
 素ヨリ帝國政府ハ日佛間ニ現存スル諸取極就中佛領印度支那ノ領土
 保全及主權ノ尊重ニ關スル帝國ノ義務ハ飽ク迄之ヲ嚴守シ佛印ノ内
 政ニ干涉セサルノミナラス佛印ヲ基地トシテ更ニ^{此、印務領域}南印等^南武力進出ヲ意圖ナキコトヲ本大臣ハ茲ニ確言シ得ル次第ナ
 リ、實ハ我方今次措置ニ對スル報復手段トシテ米國方面ニ於テハ現
 在以上更ニ在米本邦資金凍結、石油類ノ全面的禁輸等ノ如キ反日的
 經濟措置ヲ講スヘントノ情報頻リニ傳ハリ居ル處萬一右カ事實化ス

外務省

ルカ如キ場合ハ帝國政府ニ於テ從來折角抑制シ來レル、蔣政權援助
 及對日包圍陣形成ニ對スル我國民ノ反感カ意外ニ沸騰シ來ルカ如キ
 コトナキヲ保シ雖ク本大臣トシテハ衷心憂慮シ居ル次第ナリ
 米國內ニ於テ本件措置ニ對シ面白カラサル感情ヲ抱ク向アル如ク見
 受ケラルルカ客觀的立場ヨリ公平且冷靜ニ觀ルナラハ此ノ程度ノコ
 トハ蘭印交渉ノ結果カ日本ニトリ極メテ不満足ナリシ經緯竝ニ調承
 知ノ通り殆ト毎日ノ如ク海外ヨリ傳ハリツツアル對日包圍陣強化ノ
 報道等ニ依リ興奮シツツアル我國民感情ノヨリ以上ノ惡化ヲ防止シ
 寧ろ太平洋ノ平和維持ノ大局ヨリ眞ニ已ムヲ得サル措置ナルコトヲ
 貴大使ニ於テ良ク了解セラレ、日米關係打開ニ對スル本大臣ノ希望
 ト努力ニ猶餘地アラシムル様御協力アランコトヲ特ニ貴大使ニ對シ

外務省

極秘

印ノ共同防衛成立ニ關シ在京英大使ニ對スル申入案
 去ル七月二十一日帝憲政府ト「ヴィンシー」政府トノ間ニ友好裡ニ佛
 印ノ共同防衛ニ關シ意見ノ一致ヲ見近ク之ニ關スル聲明ヲ發表スル
 運ヒトナレリ
 此ノ機曾ニ本大臣ハ貴大使ニ對シ本件措置ニ對シ事前ノ通報ヲ爲ス
 ト共ニ海外情報等ニ於テ帝憲政府カ「ヴィンシー」政府ニ對シ最後通
 牒ヲ突付ケタリ等無根ノ事實カ報道セラレ居ルニ鑑ミ真相ヲ瞭カニ
 シ本問題ニ依リ不必要ノ誤解ナカラシメムカ爲茲ニ御來訪ヲ願ヒタ
 ル次第ナリ
 近時帝憲ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月ノ松岡「アンリ」協

外務省

(日本標準規格B5)

§ 1.7.0.0-14

595

4

切望スル次第ナリ

十六、七、二五

外務省

§ 1.7.0.0-14

594

REEL No. A-1077

0328

アジア歴史資料センター

定ヲ初メ屢次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般
更ニ現下ノ複雜多岐ナル國際情勢下ニ於ケル佛印ノ安全ヲ保障シ同
地方ニ於ケル平和擾亂ヲ防止スルコトカ日佛ノ共通ノ利害ナルコト
ヲ認メ今回前述ノ通り日佛兩國政府間ニ佛印ニ關スル共同防衛ノ諒
解成立セル次第ナリ

實ハ最近佛印ヲ繞リ例ヘバ「ドゴール」派ノ策動トカ支那軍ノ侵入
トカ佛印自体ノ存立及安全ヲ危殆ナラシムル如キ種々ノ憂慮スベキ
情報傳ヘラレ其ノ或ルモノハ必スシモ事實無根ノモノト思ハレサル
節アリ前述ノ如ク我方ト最モ緊密ナル關係ニアリ我方ノ最モ重要視
スル佛印カ救ヘテ第二ノ「シリア」トハ言ハサルモ何等類似ノ事態

外務省

トモナクハ我方トシテ看過シ得ザル次第ハ充分諒解ヲ得ル事ト存
ス

從ツテ本共同防衛ノ取極ハ飽迄防禦的性質ノモノニシテ何レノ第三
國ヲモ攻撃目標トスルモノニ非ス又素ヨリ帝國政府ハ佛領印度支那
ノ領土保全及主權ノ尊重ニ關スル帝國ノ義務ハ何所迄モ之ヲ嚴守ス
ル意嚮ナルハ本大臣ノ確言シ得ル次第ナリ尙本件話合ハ始メヨリ終
リ迄極メテ友好裡ニ行ハレ何等「ヒツチ」ナカリシコトハ特ニ貴國
ニ達シ置キ度シ

就テハ本大臣ハ貴大使カ帝國ノ眞意ト本件共同防衛ノ平和的性質ト
ヲ充分諒解セラレンコトヲ期待シ且切望スルモノニシテ万一ニモ本

外務省

件措置カ緩解セラレ之ニ對抗スル如キ對日措置カ講セラレ其ノ結果トシテ左ナキタニ蔭政權援助強化及ヒ對日包圍陣結成ニ關シ我國民ノ胸中ニ深ク暗リ居ル感情カ我當局ノ抑制ニモ不拘沸騰シ來ル如キアランカ日英國交上憂慮スヘキモノタルハ當フ迄モナキ所ナリ帝國政府ハ素ヨリカカル事態ノ發生ヲ極力避ケ度キ強キ希望ヲ有スルモノニシテ、サレバこそ、茲ニ貴使ノ協力ヲ煩ハス次第ナルコトヲ特ニ附言スルモノナリ

十一月七日

外務省

S 17.0.0-14

598

佛印進駐ニ關シ豊田大臣ヨリ「グループ」米國大使ニ事前申入レノ件
(一六七二五年午後九時半、於官邸)

一、大臣ヨリ本件ニ關スル覺ノ趣旨ヲ申入レラレタル後「グループ」大使ハ二十四日「ウエルズ」次官カ新聞記者會見ニ於テ帝國ノ南部佛印進駐ニ關シ爲セル聲明ニ關スル電報寫全文ヲ讀上ケタル上本件ニ關シ米側ノ最モ知ラント欲シ居ル點ニ付大臣ノ覺書中「日本ハ佛印南部ヲ隣接地方ニ對スル武力進出ノ基地ナラシムル意毫モ無キ」旨言明セラレ居ルコトハ同大使ノ最モ喜ニ堪ヘサル次第ヲ繰返シ述ヘ同夜早速本國政府ニ電報致スヘント約東セリ

外務省

S 17.0.0-14

599

大臣ヨリ右「ウエルズ」次官ノ聲明中「オキユバイ」ナル辭句
 ハ何ヲ意味スルヤヲ問ハレタルニ對シ「グルー」大使ハ「右ハ
 決シテ永久的占領ヲ意味シ居ルモノト解セラルヘキニ非ス單ニ
 軍隊ノ進駐ヲ意味スルモノナルヘシ」ト答フ
 「大臣ヨリ「現ニ佛印ヲ中心トシテ「ビルマ」、新嘉坡、蘭印等
 ノ地域ニ於テ對日包圍陣ヲ形成セラレツツアルハ動カシ得サル
 事實ニシテ佛印カ「シリア」ノ運命ニ陥ルカ如キコトヲ憂フル
 次第ニシテ今次措置ハ日佛共同防衛ニ依リ佛印ヲ防護スル以外
 ニ何等他意ナシト述ヘラレタルニ對シ「グルー」大使ハ「本使
 在任九ケ年間ニ亘ル經驗ニ徴シ日本ハ憂ニハ滿洲事變アリ次テ
 今次支那事變ノ勃發アリ、揚子江、海南島ニ對スル進出今又佛

S 1.7.0.0-14 600

外務省

印進駐アリ日本ノ南進態勢ハ漸次完成セラレアルカ如クニ見受
 ケラル」旨述ヘタリ
 仍テ大臣ヨリ「貴大使ノ申述ヘラルル所ニ依レハ恰モ憂ノ北部
 佛印進駐ヲ以テ南進ノ前提ナルカ如クニ謂ハルルモ右ハ全然誤
 解ナリ、北部佛印進駐ハ現時支那事變目的ヲ完遂スルノ意圖ニ
 出テタルモノナリ」ト説明セラレタリ

S 1.7.0.0-14 601

外務省



「グルー」大使ハ從來過去八年間ニ亙リ日本政府ハ種々ノ機會ニ於テ *Clear and concrete* ナル保證ヲ與ヘラレタルニモ拘ハラズ何等實行セラレ居ラス米側ハ凡テ事實並ニ實際ノ措置ニ基キテ議論致シタキ次第ナルモ只今個々ノ問題ニ付意見ノ相違ニ付論議致スコトハ差控ヘタキ旨述ヘタリ

大臣ヨリ「今次ノ佛印進駐ノ措置ニ關シ近ク帝國政府ノ聲明發表セラル答ナルモ特ニ今夜貴大使ニ對シ事前ノ通告ヲ爲スコトハ貴大使ト本大臣ノ「フレンドリー」ナル關係ヲ考慮シテ爲シタル次第ナリ「グルー」大使ハ頗ル喜ヒタル様子ニテ大臣ニ對シ其ノ好意ヲ謝シタリ」本大臣ヨリモ本會談ノ模様ニ付之ヲ傳達シ米側ニ於テ誤解アリトスレハ之ヲ是正スルヤウ調達スヘ

外務省

S 17.0.0-14

602

キモ貴大使ヨリモ詳細本國政府ニ電報セラレ帝國政府ノ眞意ヲ傳ヘ置カレ度シ。要スルニ本大臣ヲ御信賴アリ度シ尙 *This is the last opportunity for Your Excellency to exert your influence on your Government to understand Japan's position* 結ハレタルニ對シ「グルー」大使ハ本國政府ニ電報方ヲ約スルト共ニ「將來トモ本大使ハ日米國交改善ノ爲メニ全力ヲ盡スヘシ」ト述ヘ極メテ友好的ナル雰囲気ノ裡ニ會談ヲ終レリ

會談時間三十分

外務省

S 17.0.0-14

603

極秘

佛印平和進駐ニ關シ在京米國大使ニ對スル申入案

去ル七月二十一日帝國政府ト「ワイシー」政府トノ間ニ友好裡ニ佛印ノ共同防衛ニ關シ意見ノ一致ヲ見近ク之ニ關スル聲明ヲ發表スル事ヒトナレリ

此ノ機會ニ本大臣ハ日本政府ヲ代表シ貴大使ニ對シ本件措置ニ對シ事前ノ通報ヲ爲スト共ニ海外情報等ニ於テ帝國政府カ「ワイシー」政府ニ對シ最後進駐ヲ交付ケタリ等無根ノ事實カ報道セラレ居ルニ鑑ミ真相ヲ瞭カニシ本問題ニ依リ不必要ノ誤解ナカラシムカ爲茲ニ御來訪ヲ願ヒタル次第ナリ

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月ノ松岡「アンリー」協定ヲ初メ屢次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般

外務省

シキニ格規格B5 S 17.0.0-14 604

更ニ現下ノ複雜多岐ナル國際情勢下ニ於ケル佛印ノ安全ヲ保障シ同地方ニ於ケル平和攪亂ヲ防止スルコトカ日佛ノ共通ノ利害ナルニ鑑ミ今四前通ノ通り日佛兩國政府間ニ佛印ニ關スル共同防衛ノ諒解成立セル次第ナリ

素ヨリ帝國政府ハ日佛間ニ現存スル諸取極就中佛領印度支那ノ領土保全及主權ノ尊重ニ關スル帝國ノ義務ハ飽ク迄之ヲ嚴守シ佛印ノ内政ニ干渉セサルノミナラス佛印ヲ基地トシテ更ニ其ノ近接地域ニ武力進出ノ意圖ナキコトヲ本大臣ハ茲ニ確言シ侍ル次第ナリ

實ハ我方今次措置ニ對スル報復手段トシテ米國方面ニ於テハ現在以上更ニ在米本邦資金凍結、石油類ノ全面的禁輸等ノ如キ反日的經濟措置ヲ購スヘシトノ情報類リニ傳ヘリ居ル處真一右カ事實化スルカ

外務省

シキニ格規格B5 S 17.0.0-14 605

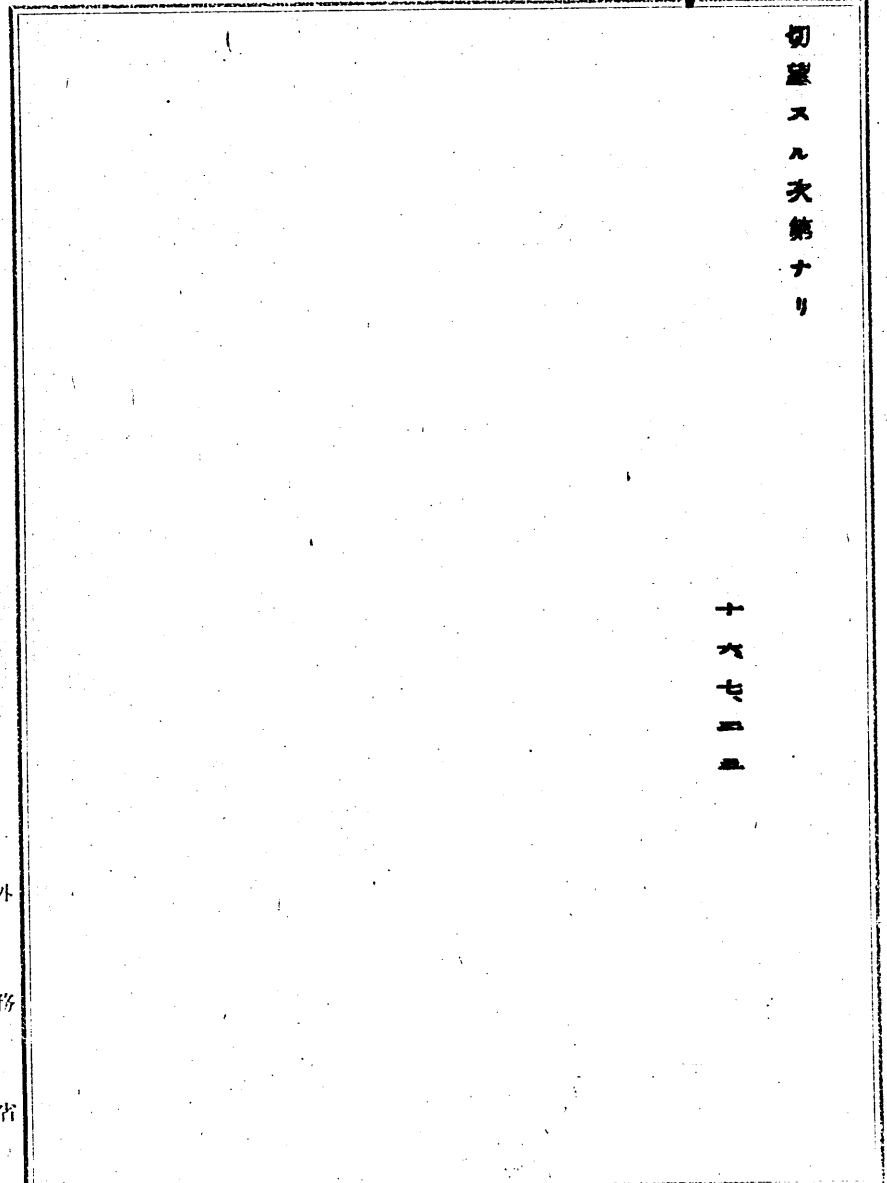
如キ場合ハ帝國政府ニ於テ從來折角抑制シ來レム、蔣政權援助及圖日包圍陣形成ニ對スル我國民ノ反感カ意外ニ沸騰シ來ルカ如キコトナキヲ保シ難ク本大臣トシテハ衷心憂慮シ居ル次第ナリ

米國內ニ於テ本件措置ニ對シ面白カラサル感情ヲ抱ク向アル如ク覺受ケラルルカ客觀的立場ヨリ公平且冷靜ニ觀ルナラハ此ノ程度ノコトハ南印交渉ノ結果カ日本ニトリ極メテ不満足ナリシ輕率立ニ御承知ノ通り殆ト毎日ノ如ク海外ヨリ傳ヘリツツアル對日包圍陣強化ノ報道等ニ依リ興奮シツツアル我國民感情ノヨリ以上ノ惡化ヲ防止シ寧ロ太平洋ノ平和維持ノ大局ヨリ眞ニ已ムヲ得サル措置ナルコトヲ貴大使ニ於テ良ク了解セラレ、日米關係打開ニ對スル本大臣ノ希望ト努力ニ猶豫地アラシムル様御協力アツンコトヲ特ニ貴大使ニ對シ

外務省 日米關係現狀 17.0.0-14 606

切望スル次第ナリ

十六七



外務省

日米關係現狀 17.0.0-14 607

36

3121

一、大臣ヨリ右「ウエルズ」次官ノ聲明中「オキユバイ」ナル辭句ハ何ヲ意味スルヤヲ問ハレタルニ對シ「グルー」大使ハ「右ハ決シテ永久的占領ヲ意味シ居ルモノト解セラルヘキニ非ス單ニ軍隊ノ進駐ヲ意味スルモノナルヘシ」ト答フ

一、大臣ヨリ「現ニ佛印ヲ中心トシテ「ビルマ」、新嘉坡、蘭印等ノ地域ニ於テ對日包圍陣ヲ形成セラレツツアルハ動カシ得サル事實ニシテ佛印カ「シリア」ノ運命ニ陥ルカ如キコトヲ憂フル次第ニシテ今次措置ハ日佛共同防衛ニ依リ佛印ヲ防護スル以外ニ何等他意ナシト述ヘラレタルニ對シ「グルー」大使ハ「本使在任九ケ年間ニ亘ル經驗ニ徴シ日本ハ曩ニハ滿洲事變アリ次テ今次支那事變ノ勃發アリ、揚子江、海南島ニ對スル進出今又佛

外務省

IMT 573

83

607~2

36
3121

部内第一號

A7009-2

大臣

3121

官

佛印進駐ニ關シ豊田大臣ヨリ「グルー」米國大使ニ事前申入レノ件
(一六七二五午後九時半、於官邸)

一、大臣ヨリ本件ニ關スル覺ノ趣旨ヲ申入レラレタル後「グルー」大使ハ二十四日「ウエルズ」次官カ新聞記者會見ニ於テ帝國ノ南部佛印進駐ニ關シ爲セル聲明ニ關スル電報寫全文ヲ讀上ケタル上本件ニ關シ米側ノ最モ知ラント欲シ居ル點ニ付大臣ノ覺書中「日本ハ佛印南部ヲ隣接地方ニ對スル武力進出ノ基地ナラシムル意毫モ無キ」旨言明セラレ居ルコトハ同大使ノ最モ喜ニ堪ヘサル次第ヲ繰返シ述ヘ同夜早速本國政府ニ電報致スヘシト約束セリ

外務省

IMT 573

82

607~1

印進駐アリ日本ノ南進態勢ハ漸次完成セラレアルカ如クニ見受ケラル旨述ヘタリ
 仍テ大臣ヨリ「貴大使ノ申述ヘラルル所ニ依レハ恰モ義ノ北部佛印進駐ヲ以テ南進ノ前提ナルカ如クニ謂ハルルモ右ハ全然誤解ナリ、北部佛印進駐ハ現時支那事變目的ヲ完遂スルノ意圖ニ出テタルモノナリ」ト説明セラレタリ

IMT 573 84 607-3

外務省

「グルー」大使ハ從來過去八年間ニ亘リ日本政府ハ種々ノ機會ニ於テ Clear and concrete ナル保證ヲ與ヘラレタルニモ拘ハラズ何等實行セラレ居ラス米側ハ凡テ事實竝ニ實際ノ措置ニ基キテ議論致シタキ次第ナルモ只今個々ノ問題ニ付意見ノ相違ニ付議論致スコトハ差控ヘタキ旨述ヘタリ
 「大臣ヨリ「今次ノ佛印進駐ノ措置ニ關シ近ク帝國政府ノ聲明發表セラル等ナルモ特ニ今夜貴大使ニ對シ事前ノ通告ヲ爲スコトハ貴大使ト本大臣ノ「フレンドリー」ナル關係ヲ考慮シテ爲シタル次第ナリ（「グルー」大使ハ頗ル喜ヒタル様子ニテ大臣ニ對シ其ノ好意ヲ謝シタリ）本大臣ヨリモ本會談ノ模様ニ付之ヲ傳達シ米側ニ於テ誤解アリトスレハ之ヲ是正スルヤウ訓達スヘ

IMT 573 85

外務省

キモ貴大使ヨリモ詳細本國政府ニ電報セラレ帝國政府ノ眞意ヲ
 傳ヘ置カレ度シ。要スルニ本大臣ヲ御信賴アリ度シ尙 *Emphasis*
the last opportunity for Your Excellency to exert your influence on
Your Government to understand Japan's position 結ハレタルニ對シ「グ
 ルー」大使ハ本國政府ニ電報方ヲ約スルト共ニ「將來トモ本大
 使ハ日米國交改善ノ爲メニ全力ヲ盡スヘシ」ト述ヘ極メテ友好
 的ナル雰囲気ノ裡ニ會談ヲ終レリ

會談時間三十分

外務省

IMT 573 86 609-5

外機密

電信寫

東京 十一月二十六日午後
 本館 十一月二十六日夜着
 長田外務大臣
 第二七五號
 十一月二十六日 澤田少將以下機員殆ト全部西貢ニ出發
 三參謀本部 本中時局三日次官地ニアリシニ又十一月二十六日西貢ニ
 赴ク
 三總督及御印軍司令官ノ部下ノ處置地ニ...

S 17.0.0-14 608

外機密

電信寫

二一九三〇 (一) 六月二十六日午後
二十七日午後

田外新大軍

海軍大使

電報三〇號 至急、館長寺野

電報三〇〇號及三三〇二號ニ付

起草委員會ニ於テ撤兵問題ニ關スル審議并復問題ヲ確保シ決定

案文ヲ確定セルニ付別電報三三〇號ニ付リテ速ニ一旬讀場ハ同

ニ依テレタシ

尙書院第三一七號訓令ニ依リ撤兵問題ニ對テハ以下交渉中ニ付

遺留スヘシ (了)

Handwritten signature and initials

Handwritten signature and initials

S 17.0.0-14 609

REEL No. A-1077

0338

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16年六月二十六日午後
二一九七六
本 省
加藤大使

第四三一號 (密 急) 館長符號扱

PROPOSALS

ENTRE LA FRANCE ET L'EMPIRE DU JAPON CONCERNANT LA DEFENSE EN COMMUN DE L'INDOCHINE FRANÇAISE. (以下「プロポーザル」以下全部大文字)

(一行空處)

Le Gouvernement Français et le Gouvernement Impérial du Japon,

(一行空處)

rennent en considération la situation internationale actuelle;

Reconnaissant qu'en conséquence, dans le cas où la sécurité de l'Indochine française serait menacée, le Japon serait fondé à estimer que la tranquillité générale en Asie Orientale et sa propre sécurité se trouveraient en danger;

電信寫

renouvelant à cette occasion les engagements pris, d'une part, par le Japon de respecter les droits et intérêts de la France en Extrême Orient et notamment l'intégrité territoriale de l'Indochine française et des droits souverains de la France sur toutes les parties de l'Union Indochinoise, et, d'autre part, par la France de ne contracter au sujet de l'Indochine aucun accord ou entente avec une tierce puissance prévoyant une coopération politique, économique ou militaire de nature à l'exposer directement ou indirectement au Japon;

(一行空處)

Sont convenus des dispositions suivantes:

(一行空處)

- 1) Les deux Gouvernements s'engagent à coopérer militairement pour la défense en commun de l'Indochine française.
- 2) Les mesures à prendre en vue de cette coopération feront l'objet d'arrangements spéciaux.
- 3) Les dispositions ci-dessus ne resteront en vigueur qu'autant que

17.0.0-14

611

17.0.0-14

610

REEL No. A-1077

外機密

電信寫

Circumstances ayant netive leur adoption subsisterent.

((密 藏))

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés par leurs Gouvernements respectifs, ont signés le présent Protocole qui entre en vigueur ce jour même et y est apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, en langues française et japonaise, à Vichy, le

Jullet 1941, correspondant au 8^{ème} jour du 7^{ème} mois de la 16^{ème} année de Sywa. (Ouart)

S 1.7.0.0-14

612

REEL No. A-1077

0340

アジア歴史資料センター

外機密

電信寫

伊部

昭和14 五五二五〇 (一層)

新京 七月二十六日 午後

皇国外務大臣

第五八五號

貴電合第一五九三號ニ付シ(南滿佛印通商ニ關スル件)

二十五日午後ヨリ直接伊部總務總理ニ付シテ傳ケリ(了)

梅澤大使 (全四)

伊部

S 1.7.0.0-14

613

REEL No. A-1077

034

外機密

昭和16 二二〇六九

ワイシー 七月二十六日發着
本 省 二十七日發着

豐田外務大臣

加藤大使

第四三四號（至急）

貴官第三二二號ニ關シ

日本本文書ニ對スル佛側全權ノ署名ハ貴方ニ於テ照シテ留メノミセ
シムル形式ニテ差支テキヤ（了）

電信寫

外機密

昭和16 二二〇六八

ワイシー 七月二十六日發着
本 省 二十七日發着

豐田外務大臣

加藤大使

第四三五號（大至急）

往電第四三三號ニ關シ

佛側ハ本件書翰ヲ議定書附屬書トスヘキ旨ヲ申出タルモ右ハ日本
側トシテ絕對ニ受諾シ得サルモノナル旨說示シ佛側モ右申出ヲ撤
回只議定書署名ト同日附ニテ書面ヲ發送スル手筈ニテ折合ヲ附ケ
本件確定ヲ見タリ（了）

電信寫

S 17.0.0-14

617

S 17.0.0-14

616

極秘

寫

一、軍ハ豫定ノ如ク二十五日十時時船發相合、兩艦ノ壯麗ニ上ル將兵
一、同志氣旺盛ナリ
二、天氣晴朗海上靜穩ナリ

佛 印 軍

昭和一六・七・二六

陸軍

(終)

S 17.0.0-14

618

REEL No. A-1077

0344

アジア歴史資料センター